

土成中学校  
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①自らを成長させようとする生徒の育成
- ②家庭における学習習慣の確立による学力の定着

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 河野昌紀 三栖千晶	委員 校長:尾関英知 教頭:植原浩之 教務主任:宮井宏 1年主任:田邊和美 2年主任:三宅弘朗 3年主任:小崎朱代 人権教育主事、生徒指導主事、道徳教育推進教師、研修主任、保健主事 特別支援教育コーディネーター 学力向上学年担当:三栖千晶(1年)、河野昌紀(2年)、三木和也(3年)
-------------------------	---

校長  
尾関 英知 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 漢字の読み書き、計算などの基礎的な事柄については、意欲的な取り組みが見られ、ある程度の定着が見られる。	①読書習慣が身についている。 ②言語に対する関心・理解を深め、言語に関する基礎的・基本的な知識や技能を身につけることができる。	①「読書の習慣が身についている」と答える生徒が60%以上を目指す。 ②県調査の国語「書くこと・読むこと」の項目が県平均以上を目指す。	・図書委員会による学期ごとの学級文庫の入れ替えを行う。また、図書室の「おすすめの本」の案内を校内に掲示する。 ・生活記録の書く内容や表現についてアドバイスする。	評価 次年度における改善事項	
課題 学力に二極化が見られる。学力の低い生徒は、文章を読み取る力が弱く、書くことが苦手で、学習意欲の低下につながっていると考えられる。	具体的方策(教員の取組) ①学級文庫の充実、朝の読書の時間の確保により、読書活動を促す。 ②小テスト等を継続的に実施する。 ③生活記録の指導を通して、言語力の向上を図る。	取組指標 ①一日平均15分以上の読書を目指す。 ②授業の中で、週1回以上小テストなどを実施する。 ③生活記録提出率80%以上を目指す。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えようとする意欲がある。	目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現することができる。	①県調査国語「話す・聞く能力」において県平均以上を目指す。 ②県調査の数学「数学的な見方や考え方」において、県平均以上を目指す。	・授業において、自分の意見をもって話し合う機会を増やす。	評価 次年度における改善事項	
課題 難しいことや苦手なことでも最後まであきらめない気持ちや、疑問に思ったことについて追求しようとする意欲が乏しい。	具体的方策(教員の取組) ①学習課題等を工夫し、折れない心や探求心を育成する。 ②自主勉強が毎日提出できるよう粘り強く指導し、家庭学習の習慣化を図る。	取組指標 ①生徒の生活に即した学習課題を設ける。 ②自主勉強を毎日提出できる生徒の割合が80%以上を目指す。			

平成30年度 学力向上ロードマップ

